

防災機能の充実・強化で 安全・安心なまちづくり

いつ、どこで、どのように起こるか予測できない大規模災害。市では、災害に強い都市基盤の整備や消防・防災体制の強化など、さまざまな災害から市民の生命と財産を守る「災害に強いまちづくり」の推進に努めています。シリーズ市政の「今」。第34回は、防災機能の充実・強化による安全・安心なまちづくりの取り組みについてお知らせします。



災害への備え

平成28年4月に発生した熊本地震。そして、阪神・淡路大震災や東日本大震災などでは、多数の犠牲者と都市インフラの寸断などで住民の生活が一変する甚大な被害が発生しました。本市でも近年では、平成25年9月の台風18号や平成26年8月の豪雨で、市内の河川の増水・氾濫や土砂災害などにより市全域に大きな被害が発生しました。

市では、これらの危機事象に対応するため、都市基盤の整備や防災体制の強化に努めるとともに、防災訓練の実施や情報伝達手段の充実など、市民の安全・安心の確保と災害に対する危機管理意識の向上に取り組んでいます。

自助・共助・公助の取り組み

平成27年10月、大規模地震や津波を想定した「舞鶴総合防災訓練」を海上自衛隊舞鶴教育隊、三浜・小橋地区、前島ふ頭の3会場で実施。海上自衛隊、陸上自衛隊、舞鶴海上保安部、舞鶴港湾事務所、警察、自治会、自主防災組織など24関係機関・団体に加え、一般見学者も含めた約900人が参加。「自助」「共助」「公助」の重要性を再確認しました。

原子力防災体制の強化

本市は、関西電力株式会社（以下関電）高浜発電所から5キロ圏内（PAZ）に市民が居住し、30キロ圏内（UPZ）には市内全域が含まれます。これらの実態を踏まえ、平成27年2月に「高

浜発電所に係る舞鶴市域の安全確保等に関する覚書」を府・市・関電の3者で締結。立地自治体と同等の権限を確保する中で、地域の安全・安心の向上に努めてきました。

平成27年11月、「高浜発電所に係る舞鶴市住民説明会」を総合文化会館で開催。自治会長や民生児童委員、各関係機関・団体の代表者など602人が出席し、国から原子力発電所の必要性や安全性、原子力防災の取り組みについて説明を受けました。この説明会の内容は、市ホームページで動画を公開するとともに、市民など82人からいただいた意見や質問は回答を添えて公表しています。

平成28年3月には、高浜発電所の事故を想定した原子力防災訓練を志楽地区で実施。9自治

会の住民約200人が参加し、避難時集結場所の志楽小学校で避難カードの提出や安定ヨウ素剤に見立てたあめ玉の受領、避難中継所と想定した文化公園体育館で避難退域時検査・除染を体験するなど住民避難の手順等を確認しました。

同月「原子力災害住民避難計画（平成25年3月策定）」を全面改正。これは、国の「高浜地域の緊急時対応」や関西広域連合の「広域避難ガイドライン」、府の「広域避難要領」の上位計画を反映するとともに、国の原子力災害対策指針や府・市の地域防災計画との整合を図り、より実効性のある計画に改正したものです。5～6月には、市内5か所府との共催で住民説明会を開催し、延べ308人の市民が参加しました。

由良川水防対策

平成16年の台風23号洪水で浸水した地域の整備を行っていた「由良川下流部緊急水防対策」は、地盤沈下などの影響で一部進捗が遅れていた大川工区の築堤工事も完了。平成28年3月には、すべての工区において工事が完了しました。

また、自治会長・区長のつどいや市職員が地域に向く出前講座でも随時、改正内容を説明しています。

平成16年の台風23号洪水で浸水した地域について、平成25年度からおおむね10年で整備を行う「由良川緊急治水対策」も、国・府と強固な連携を図りながら、下東地区、三日市地区の輪中堤整備（※集落の周囲を囲むように設置され

西地区の浸水対策

西地区でも同様に、過去の大型台風の襲来時には、高野川の増水と高潮の影響で、小規模河川や水路が排水不能となつてあふれる内水氾濫が発生。地盤の低い西市街地では、たびたび浸水被害が発生しています。このため、公共下水道事業として、内水対策の計画策定に取り組むとともに、高野川を管理する府と連携して、総合的な治水対策を進めています。

平成28年9月には、舞鶴西自治連合会が中心となり「西市街

消防・防災体制の強化

設備面では、最先端のIT技術を駆使した高機能消防通信指令システムの構築をはじめ、高規格救急車や30級級はしご車、救助工作車の整備など、時代に即した設備や装備を導入し、災害対応の充実・強化に努めています。

特に地域防災力の要である消防団には、消防ポンプ自動車などの更新を行うとともに今年度から、汎用性の高い小型動力ポンプ用軽搬送車を遠隔地の消防団から順次、配備予定。今後、地域の消防活動に係る機動力を強化し、消防団員の安全装備の充実や活動しやすい環境の整備を図っていきます。



▲原子力災害住民避難計画の住民説明会



▲総合防災訓練で消火訓練



▲多々見市長による総合防災訓練の講評



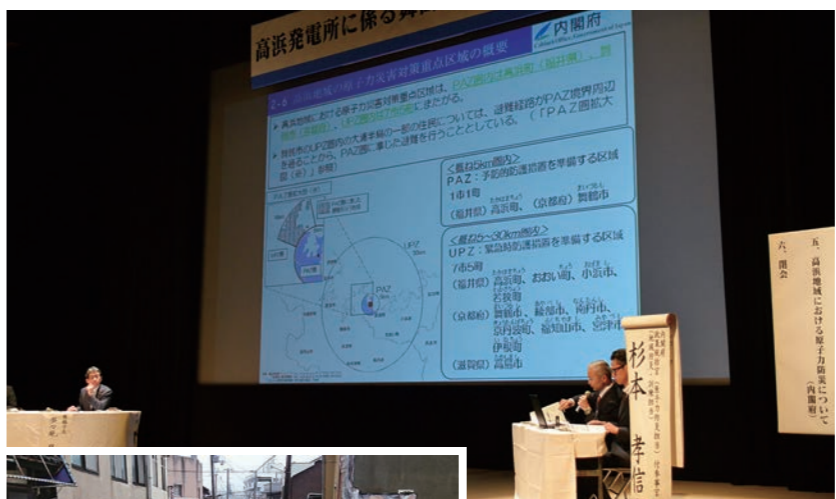
▲原子力防災訓練の避難退域時検査



▲輪中堤の整備が進む下東地区



▲順次更新している消防設備



上：高浜発電所に係る住民説明会 (昨年11月撮影)
左：浸水する八幡地区 (平成25年9月撮影)

